

大雪山国立公園表大雪地域 登山道関係者による冬季情報交換会 概要

日時：平成30年12月18日（火）

13:00～14:30

場所：旭川地場産業振興センター

1. 開会

2. 挨拶

■上川自然保護官事務所（榎）

- ・今年7月に大雨で愛山溪へ至る道道が崩落し、高山帯では間宮岳へ至る登山道が崩落した他、地震の影響もあったと思うが、台風に見舞われた去年一昨年と比べると平穏だったと思う。

本情報交換会では今年度の活動を報告しあい、互いの活動を知り、連携や課題の共有を進めて頂きたい。またそれぞれが来年の活動について考えるきっかけにして頂ければと思う。

今年、特筆すべきことは登山道維持管理作業実施手順マニュアルの運用を開始したこと。情報交換会の趣旨を越える背伸びをした取組になると思うが、今問題になっている登山道荒廃への対応と、大雪山の原始的な自然を守る質の高い施工を両立するためには必要な取組となるため引き続きご協力願いたい。

3. 情報交換

(1) 各団体からの報告

- ・事前に各団体から提出のあった今年度の活動予定については資料1にとりまとめ、環境省東川自然保護官事務所より説明をおこなった。
(出席した上川町、美瑛町、大雪地区自然公園指導員連絡協議会、(株)りんゆう観光、(有)風の便り工房、山岳ガイド協会表大雪地区連絡調整室、大雪と石狩の自然を守る会、NPO法人大雪山自然学校、旭川東警察署から、事前の資料提供はなかった。)
- ・次に、資料1とは別に資料を提出した、上川総合振興局環境生活課、富良野山岳会、山のトイレを考える会、北海道山岳整備、大雪山・山守隊、東川エコツーリズム推進協議会より説明が行われた。
- ・資料に記載された内容の他に補足説明がなされた内容は、以下のとおり。

■上川総合振興局環境生活課

- ・地域政策推進事業とは各振興局が独自に行う事業であり、今年で4年目。5年間で1つの区切りで、来年度が区切りの年となる。
- ・登山道補修のイベントについても委託形式で実施は来年度が最後となる。一つのイベントとして定着しつつあり、応募人数が増えて参加人数も多い。
- ・高山植物保護対策事業は林道・町道が崩壊したため、未実施。
- ・環境省が旭岳温泉に新しいビジターセンターをオープンさせるため、現在の旭岳ビジターセンターの役割は来年度3月末で終わる予定。

■富良野山岳会

- ・市道から登山口山小屋まで、大型バスの高さ3.8mを基準として、通行可能となるよ

う高さ4mまで、支障木除去、枝払いを行っている。

- ・重要な整備計画として、平成29年度8月の台風・河川氾濫により原始ヶ原滝コースの丸太橋が流失してしまったことへの対応がある。これまでは周辺の立木を切って丸太橋にしていたが、橋をかける場所の周辺にはもう胸高直径60cm以上の太い木で対岸まで一本で渡せる巨木がなくなってしまった。将来は吊り橋か永久橋で両岸にコンクリートを打たなければ橋が持たないため、今後はこの方法でやっていきたい。また多くの登山者から滝コースに安全に渡れる橋を架けて欲しいと市役所や山岳会へ要望が来ている。

■山のトイレを考える会

- ・上川町・上川総合振興局と打ち合わせたところ、来年度も白雲岳避難小屋の管理体制に変更はないようなので、来年度もトムラウシ方面へ縦走する人には携帯トイレ持参の呼びかけ、提供を行って頂く予定。

■北海道山岳整備

- ・愛山溪地区の村雨の滝近くでの死亡者と怪我人が出てしまった。固い雪が急斜面に残る場所、そこをトラバースしなければならず、山岳関係者の間では、ここは残雪がある期間危ない場所だと知られている場所だったので、事前に登山者へ周知できなかったことを悔しく思う。来年以降は登山口に貼り出し等出来るよう愛山溪温泉を管理する(株)りんゆう観光と相談したい。
- ・7月初旬の豪雨により中岳温泉が埋まってしまったが、2週間後には、誰かが掘りあげて温泉が2つできていた。ただし、今までの沢の流れが変わり、登山道を流れているため、次の豪雨があった場合、登山道が洗掘される可能性があるため、今後、留意したい。
- ・昨年に比べて外国人の登山者が非常に増えた。午後2~3時頃にお鉢平を歩いている。今後、標識整備を含め外国人への対応が今後、必要である。
- ・トムラウシ南沼野営指定地植生復元業務は報告書として環境省へ提出しているため、PDF等で公開していただければ、みなさんも見ていただきたい。

■大雪山・山守隊

- ・裾合平のポールマーキングは、来年度以降も今回より早い時期に地元の方々と一緒に行いたい。位置は、夏道をトレースして行う。
- ・登山道のデータベースづくりの一環として、Go-pro (アクションカメラ)、ドローンで登山道を記録した動画を、グーグルマップに集約したものを紹介。
- ・動画のメリットとして、施工状況等が鮮明にわかり、静止画として加工も可能。
- ・動画は、調査だけでなく、紅葉期の映像をビジターセンターで流して観光利用としても使用できる。
- ・グーグルマップへの集約は、動画情報以外にも過去の施工個所の報告書等を URL や PDF で貼ることも可能であるため、ぜひ、情報の活用や集約は大雪山全体で検討したい。

(2) 歩道等維持管理作業実施手順マニュアル試行結果及び実施報告について

■上川自然保護官事務所(桧)

- ・マニュアルは前回配布し、大雪山国立公園連絡協議会のHPでも掲載しているので見てもらいたい。
- ・マニュアルの目的は、多様な団体が大雪山の登山道を補修等維持管理できるように実

施手順を明確化すること、補修作業の品質を確保すること、作業結果の情報の共有を行うこと。

- ・手順としては、補修等の作業をする場合は事前に計画を立て、その内容についてワーキンググループで検討・意見出しを行う。計画者は出た意見に基づき計画を再検討し、補修作業を行う。技術的にやり方が変わらないササ刈り等は実施結果報告を頂き、皆で情報共有を行う。
- ・今回は実際に計画を出して頂いた皆さんから一言ずつ結果報告や感想を頂戴したい。

■美瑛山岳会

- ・美瑛岳登山道は3年前に環境省グリーンワーカー事業で補修を実施したが、施工場所が遠かったこともあり21か所の予定箇所のうち18か所しか実施できず、資材を現場に仮置きしている状況。今年の積雪期までに行うよう計画書を作成したものの、事業執行者がいない路線ということもあり、山岳会では色々な法令の手続きをすることもできず、計画書は提出したが、結局施工はできなかった。

■NPOかむい

- ・昨年より銀泉台の整備を行っているが、今年は計画書を作成してワーキンググループで見てもらい、それから計画書を修正して、管理者である振興局に見てもらい施工をした。内容は、昨年の施工した箇所の改修等。
- ・夏になってから計画を検討するのでは、作業する期間が取れなくなってしまうので、今後は、冬場に計画書を提出してワーキンググループで意見をやりとりしてもらい、夏が始まる前にGOサインを出してもらい、夏すぐに作業が出来る状況を作りたいと要望した。

■北海道山岳整備

- ・このマニュアルについては運用上の問題は多々あるが、これまでは大小の施工を含めて、それぞれの場所でその人流の施工がずっとなされていて大雪山ではどのように施工すべきかの基準がなかったところを、今回ワーキンググループで計画を検討することで違う施工にならないようにすることができるようになった。運用上の色々な問題は、少しずつ解決しながら、この取組を続けていきたい。
- ・これからも登山道崩壊は続き、施工しなければならないと思う人が出てくると思うが、美瑛山岳会が仰っていたように、正しい手順を踏んでいるのに最終的に施工ができないということでは意味が無いことになってしまうので、しっかり手順を定めたというのであれば定めた手順で実行できるようにしていただきたい。
- ・今年色々な計画が出た中で、自分は止める立場になってしまった案件もあったが、この取組を理解してもらって裾野を広げたい。ワーキンググループに入る人をもう少し増やして、大雪山ではこういう取組をしていることを知ってもらいたい。

■上川総合振興局環境生活課

- ・試行的に実施した結果、色々な課題が出てきたが、来年度はその課題を踏まえて少しずつ改善して行けたら良い。今回、特に重要だと思ったのが、登山道補修に関しては技術的に確立されたものではなく、人それぞれが考える理想的な補修方法があり、そういう中である程度失敗が出て仕方が無いものの、その後第三者が入って評価を行い、それを共有し、ノウハウを蓄積していくのが大事だと思う。その中で行政の役割は、講習会等このような取組を行う環境づくりをしていくことだと思っている。

■東川自然保護官事務所

- ・間宮岳の著しい登山道の荒廃があった場所の補修計画を立てて補修を実施したが、荒廃が生じた要因について北海道大学の先生にヒヤリングをさせて頂き、それを踏まえて今後の施工を検討した計画を作成することができた。他の場所でもこういったことが発生する可能性はあるので、こういった知見が増えていくと他の地域でも活用できると思う。
- ・施工についてはこれが正しいということは、これからの評価やモニタリングで変わってくると思うので、通った皆様のご意見頂きたい。

■富良野山岳会

- ・登山道整備には適切な時期があり、また、事前の現地確認等大きな仕事があるので、例えば、ササ刈りをするのにワーキンググループの皆さんと協議をしてから作業に入るような段取りは組むことができない。

■上川自然保護官事務所

- ・路面の補修等、技術的に色々選択や検討の余地があるものは事前に計画を立てて検討するが、ササ刈りは実施後に報告を頂ければ問題ない。

■富良野山岳会

- ・了解したが、私たちがコース整備を行っているのは、富良野岳だけでなく、富良野西岳や芦別岳も行い様々なコース整備がある中で、ワーキンググループの皆さんと協議して行く時間がなかった。今後、大きな課題となっている原始ヶ原の橋かけの場合は、ワーキンググループの皆さんのご意見を頂きながら、また行政と相談しながらやっていきたいと思う。

■上川自然保護官事務所

- ・大雪山国立公園連絡協議会HPに掲載したいので、掲載したら御連絡する。
- ・ワーキンググループでも皆さんから様々な意見を頂戴している。課題をよりよく出来るよう改善して運営をしやすいような形にして、補修作業の促進をして品質を高めることが目的なので、来年度も試行を続けていきたい。

5. 閉会